

令和 4 年度  
東川町教育行政執行方針 (ダイジェスト版)

# 生きる力

— こども一人ひとりを理解し 自立を助け 生きる力を育む —



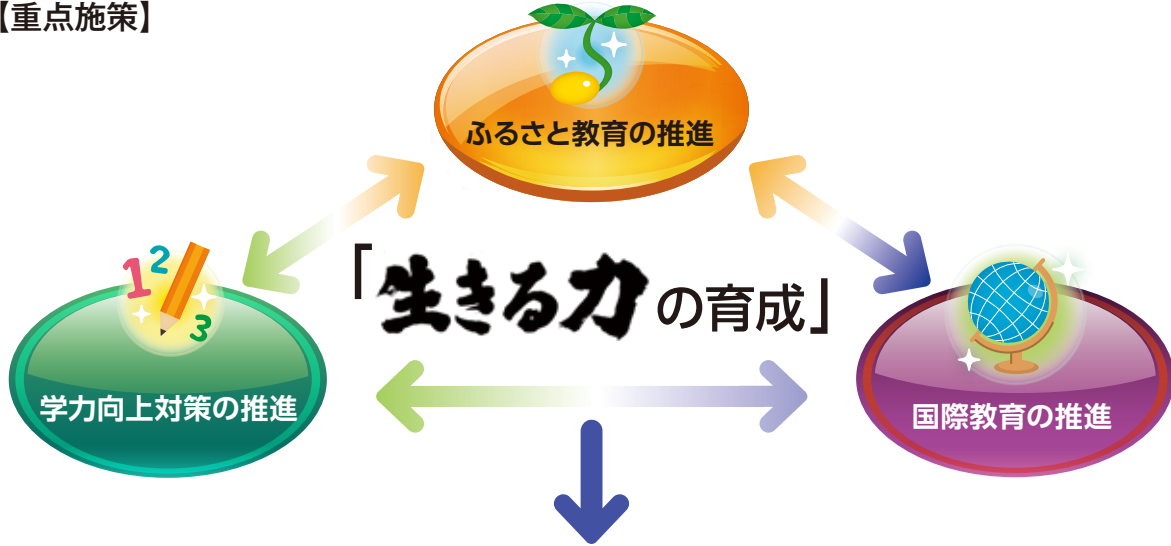
題字：鈴木幸恵教諭（東川第一小学校）  
写真：清水エリ

# 東川町教育行政執行方針

## 教育行政の体系

【基本方針】「子ども一人ひとりを理解し 自立を助け 生きる力を育む」

【重点施策】



令和4年度

目標

ふるさとを愛し共生・共和・共栄の視点に立ち  
国際社会に貢献できる人材の育成

## はじめに

子どもは未来からの留学生ととらえ、DX（デジタル・トランスフォーメーション）やAI・IoTやXR（クロスリアリティ）<注1>が進展する社会で生きていくことになります。課題を発見し、新技術を駆使しながら人とのコミュニケーションの中で解決策を見出し、新しい価値を創造できる能力を備えると共に新型コロナウイルスなど感染症や自然災害など不測の事態にも対応していく必要があります。

このことを踏まえ、すべての子どもたちが「自分の意志・自分らしさ・チャレンジする心・将来への希望」を持ち、自ら伸びて育つことができるよう個性や能力に応じた最適な学びや思いやりの心など共に生きる力を育む共生・共和・共栄社会の実現に向けた教育の実現を図ってまいります。

また、新型コロナウイルスの感染防止等、子どもたちや町民の安心安全に配慮した学びの取組みを継続して行っていきます。

## 基本方針

「ふるさとに誇りを持ち、人間愛あふれ、多様な価値観を受容でき、主体的に学び続けることができ、予測不可能な未来を生き抜くことができる子ども」の育成を目指します。このことから、令和4年度においても昨年度同様に基本方針を「子ども一人ひとりを理解し 自立を助け 生きる力を育む」とし、次の3つの重点施策について取り組みます。

（注1）

DX：（デジタル・トランスフォーメーション）ITの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的イノベーションをもたらすもの

AI：（エーアイ）人口知能、人間が作り出した高度な処理ができる賢いシステム

IoT：（アイオーティー）モノのインターネット、ネットワークを介して管理できるモノ

XR：（クロスリアリティ）現実世界と仮想世界の融合

## 重点施策

### ① ふるさと教育の推進

本町には、美しく豊かな自然、昔から受け継がれてきた固有の歴史や文化、これらを受け継ぐ人材が健在です。

これらの地域資源を効果的に活用し、自然や歴史、文化や暮らしに関することなどについて学習を深めることにより、ふるさとへの理解を深め、東川町で育ったことを誇りに思い、社会を支えていくことができる人材育成に努めます。

### ② 学力向上対策の推進

全ての子どもたちが、健やかに夢を育むことができるよう「学ぶことが楽しい」と感じ、学ぶ意欲と習慣が身につく、主体的に学習する子どもを育成します。

また、ICTを活用し、個別最適化された学びと協働的な学びにより、全ての子どもたちが基礎学力を身に着けることができるよう学力向上の取組みを進めます。

### ③ 国際教育（教育課程特例校）と新教科「Globe」の推進

平成29年度から取り組んできた文部科学省の「国際教育に係る研究開発学校」事業は、令和3年度で終了となりました。

しかし、地域特性を生かした本取組は、効果が高いため内容の見直しとSDGsの視点を加増した修正を行い、文部科学省の「教育課程特例校」＜注2＞制度を活用して、幼・小・中（高校協力）で実施すると共に、学んだ能力を生活の中でも活用できるよう体験を充実し、海外の学校とリモートによる交流を進めていきます。

**（注2）**

教育課程特例校：学習指導要領によらず、学校や地域の実態に照らしてより効果的な教育を実施するための教育課程の特例を活用する学校



## 《令和4年度主要（新規・重点事業）施策》

### 就学前教育（幼児教育・乳幼児保育）の推進

[担当：子ども未来課]

事業名等	内容等
幼児期に育みたい資質・能力の育成	「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」等が要請する資質・能力の育成のため、遊びを通じた総合的な指導により、小学校への円滑な接続に努める。
異文化交流や英語活動など国際教育の推進	ALT、CIR、SEAなど町内在住外国人の協力を得ながら、就学前の児童を対象に楽しく外国文化や英語でのコミュニケーションを学ぶ「Globe」を実施。
絵本の読み聞かせの充実	学生・地域ボランティアなどによる絵本の読み聞かせや、園内で子どもが絵本を手に取りやすい環境整備を行い、家庭での読み聞かせの推進を図る。
教育・保育環境の充実	園内組織体制の充実、保育士確保のため職員待遇の改善、地域おこし協力隊・子育て支援員の活用などにより教育・保育環境の充実を図る。
小規模保育事業所、他市町村との保育サービスの連携	保育サービス充実のため、町内小規模保育所や町内外の保育サービスを実施する事業所との連携を図る。
地域子育て環境の充実	子育て支援センターの開設時間延長、一時預かり事業の体制強化、子どもの遊び場整備などにより地域の子育て環境の充実を図る。

## 学校教育の推進

[担当: 学校教育課]

事業名等	内容等
日常的な読書活動の推進と学校図書館司書の配置	読書活動推進協議会と連携した朝読書や読み聞かせなど読書活動の充実、教科学習での学校図書館の活用と各校図書館司書の配置。
期限付教諭(町採用)、学習支援員、教育補助員、特別支援教育支援員等の配置	期限付教諭: 東中~2名、第一・二・三小~1名 学習支援員: 東小~3名、第二・三小~各1名、東中~1名、外国人子弟支援員(東小・東中) 教育補助員: 東小~2名、特別支援教育支援員: 全小中学校 理科観察実験アシスタント: 第一・二・三小~各1名
学びの個別最適化と指導体制の充実	習熟度別指導・少人数指導など、「個別最適化」を進め、自ら学び考える力を育成し、特異な才能のある児童生徒の能力を伸ばす。 ・小学校「ゆめスクール」・中学校「地域未来塾」の充実
SC・SSWの配置と教育支援室の設置	各校巡回スクールソーシャルワーカー1名・スクールカウンセラー1名を配置。 教育支援室(ふるさと交流センター内)を設置し、支援員1名を配置。
国際教育交流事業の実施	・フィンランドピッコラ中学校一生徒受入: 8名程度(約1週間程) ・USA-JMU大学教育学部生の受入: 5名程度(2週間程) 教職員の派遣: 幼・小・中 各1名(10日間程)
国際教育「Globe」の推進	「教育課程特例校」制度を活用して、幼・小・中(高校協力)で実施すると共に、学んだ能力を生活の中でも活用できるように体験を充実し、海外とのリモートによる交流を図る。 ・英語教育指導員の配置: 東中~1名 ・英語専科教員の配置: 1名 ・ALT~5名、CIR~12名、SEA~5名、JETプログラムコーディネーター~1名
奨学金助成事業の推進(要件を満たす大学等進学者への助成)	・東川町大学進学奨学助成金(+コロナ対策~12万円/人) 1年次~海外大学70万円、国内大学・短大・専門学校等50万円 2年次以降~自宅外通学4万円/月、自宅通学1万円/月 ・小西健二奨学金(国公立大学等に限定)大学~20万円、短大等~10万円/人 ・ものづくり技術者育成奨学金一建築・土木・木工芸等技術者養成~10万円/人
ICT教育とGIGAスクール構想の推進	一人一端末やICT機器を活用し、情報活用能力の育成や個別最適化された学び、協働的な学び、探求型の学びを実践する。デジタル教科書や教育ソフトを有効活用し、子どもたちが自ら学び取る授業への質的な転換を進める。 ・新高校1年生(東中3年生)へのiPadプレゼント ・東川高校1年生へのchromebook貸与
高校生向け公設塾の開設	町内高校生や東川高校生を対象とし、公設塾を開設。安価な費用で将来の可能性を広げることができる。
学校長寿命化計画の推進	学校の長寿命化個別施設計画に基づき、その計画に沿った改良工事を実施。 ・R4 第二小工事、第一小設計

## 社会教育の推進

[担当: 生涯学習推進課]

事業名等	内容等
学社連携事業の推進	学社連携推進協議会を推進母体とし、「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働本部」が車の両輪となって、地域全体で未来を担う子どもたちを育む。
学童保育・放課後活動の充実	学童保育における指導員・特別支援体制の強化、地域移送体制の充実と夏季・冬季休業中の給食の試行、放課後見守りサービスの試行。
地域おこし協力隊事業の活用	「コンサドーレU12東川」活動支援、わくわくプレイス、クロスカントリースキーの普及振興のため、地域おこし協力隊3名を活用。
わくわくプレイス事業の充実	遊びの専門的知識をもったプレイヤーを配置し、東川の豊かな資源を活用して、子どもの自主性・創造性を伸ばし東川らしい子どもを育成。地域講座の試行、スタッフ研修等を実施。
魚津市との越中踊り交流事業の支援	富山県魚津市から越中踊りの指導者を招聘し、指導を受け交流を深める事業支援。
アイルランド・ゴールウェイ市への中学生・高校生吹奏楽団の派遣	EU・ジャパンフェスト日本委員会の推薦を受け、欧州文化首都青少年文化交流事業(アイルランド・ゴールウェイ市)に東川中学校・東川高校の吹奏楽部生徒を派遣。
スポーツ国際交流員(SEA)の活用	JETプログラムによるスポーツ国際交流員(SEA)3名を追加配置して5名体制とし、スポーツの振興と国際交流など地域の活性化に繋げる。
「ちびっこスポーツクラブ」・「ふあんすぽ」の実施	小学1~2年生を対象に「ちびっこスポーツクラブ」、小学3~6年生を対象に「ふあんすぽ」を実施し体力づくりやスポーツ好きの子どもたちを育成。
中学校への部活動指導員の配置	野球、サッカー、インターナショナルクラブ、バレーボール、バドミントンの部活動の技術指導や大会への引率等を行う部活動指導員を配置。
民間企業と連携した健康づくりの実施	国の「地域活性化企業人制度」を活用し、民間企業からの派遣社員によるB&Gトレーニングルームの常駐指導、人材育成のほか健康づくり講座などを開催。